

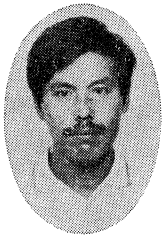
昭和 58 年度論文賞受賞論文の決定

昭和 58 年度情報処理学会論文賞は、同選定委員会（萩原委員長ほか 18 名）において、「情報処理学会論文誌」第 23 巻第 6 号～第 24 巻第 5 号ならびに欧文誌「Journal of Information Processing」Vol. 5, No. 4～Vol. 6, No. 3 に発表された全論文 116 編につき慎重に審議が行われました。その結果下記 4 編が最終候補論文として推薦され、第 276 回理事会（昭和 59 年 4 月）の承認をえて決定されました。

なお、本会表彰規程により、5 月 18 日に開催された第 25 回通常総会において、著者に表彰状と賞金が授与されました。

○ “Practically Fast Multiple-Precision Evaluation of LOG (X)”

〔欧文誌 Vol. 5, No. 4, pp. 247～250 (1982)〕



佐々木 建昭君（正会員）

昭和 21 年 4 月 1 日生。
昭和 43 年大阪大学物理学科卒業。昭和 48 年東京大学博士課程修了（素粒子論専攻）。昭和 49 年より理化学研究所勤務。現在情報科学研究室研

究員。昭和 53 年より 10 カ月米国ユタ大学計算機科学科に留学。情報科学、数学、物理、コンピュータアート、マラソン（本年度記録 2 時間 42 分）、エッセイに興味をもつ。



金田 康正君（正会員）

1949 年生。1973 年東北大学理学部物理第二学科卒業。1978 年東京大学大学院博士課程修了。理学博士。同年名古屋大学プラズマ研究所附属電子計算機センター勤務。1981

年より東京大学大型計算機センター助教授、現在に至る。研究の研究、数式処理、超大型計算、大規模ソフトウェア、ソフトウェアツール、各種言語処理系等に興味を持つ。プラズマ・核融合学会、ACM 各会員。

〔論文概要〕

初等関数を高精度に計算する標準的方法は Taylor 展開法であるが、 $\log(x)$ と $\operatorname{atan}(x)$ の Taylor 展開は収束が遅い。本論文は楕円テータ関数の q -展開公式とガウスの算術幾何平均公式を組合せて、効率よく $\log(x)$ を高精度計算する非常に簡単なアルゴリズムを呈示し、実際にインプリメントしてその有効性を示したものである。本アルゴリズムは、有名な Brent のアルゴリズムよりもはるかに効率的であるが、高精度極限では Salamin-Brent のアルゴリズムに移行する。その意味で、S-B アルゴリズムが出現してしまったあとでは影がうすい。

〔推薦理由〕

楕円テータ関数の q -展開公式とガウスの算術幾何平均公式を組合せて $\log(x)$ を高精度計算する新しい効率のよいアルゴリズムを提案したものであり、関数値の効率のよい計算を可能にするもので、論文賞受賞に値すると思われる。

○「プログラム構造の複雑さ尺度の評価と導出法の提案」

〔論文誌 Vol. 23, No. 6, pp. 701~706 (1982)〕



花田 收悦君 (正会員)

昭和 15 年生. 昭和 37 年東北大学工学部電子工学科卒業. 昭和 42 年同大学院博士課程終了. 工学博士. 同年 4 月日本電信電話公社入社. OS, 言語処理プログラム, ソフトウェア生産技術の開発に従事. 現在, 横須賀電気通信研究所複合通信研究部統括調査役, 本会昭和 56 年度論文賞受賞. 著書「プログラム設計法 (企画センター)」、電子通信学会会員.



高橋 宗雄君 (正会員)

昭和 19 年生. 昭和 42 年千葉大学工学部電気工学科卒業. 同年日本電信電話公社入社. システム記述言語及びソフトウェア生産技術に関する研究実用化に従事. 現在, 横須賀電気通信研究所データ通信研究部研究専門調査員. 電子通信学会会員.



永瀬 淳夫君 (正会員)

昭和 21 年生. 昭和 44 年慶応大学工学部電気工学科卒業. 同年日本電信電話公社入社. システム記述言語, プログラム構造の複雑さ尺度, テスト支援技術の研究実用化等に従事. 現在, データ通信本部第四データ部調査役. 電子通信学会会員.



黒田 幸明君 (正会員)

昭和 27 年生. 昭和 50 年大阪府立大学工学部電気工学科卒業. 昭和 52 年同大学院修士課程修了. 同年 4 月日本電信電話公社入社. ソフトウェアの生産性向上技術の研究及び実用化に従事. 現在, 横須賀電気通信研究所データ処理研究部研究専門調査員.

〔論文概要〕

プログラムの品質管理への適用をねらいとして, 構造の複雑さと信頼性 (バグ数) との定量的関係を明らかにし, プログラム構造の複雑さ尺度の導出法を提案している. 従来提案されている代表的な尺度は, 簡明ではあるが, プログラム構造の一面しか表わしていないことを, バグの統計的分析により確かめた. その結果より, データ構造, データ参照, 制御構造, 処理, プログラムインタフェースの 5 つのプログラム特性に基づいて, 構造の複雑さを表現する尺度を考案している. さらにこれを用いて大規模システムプログラムの複雑さを求め, バグとの関係を評価し, 構造の複雑さが信頼性に与える影響度合は, 15% 程度であることを推測している.

〔推薦理由〕

従来提案されているプログラム構造の尺度は必ずしも適切なものでないので, データ構造, データ参照, 処理, 制御構造およびプログラムインタフェースに基づいて, 構造の複雑さを表現する尺度の導出法を提案している. プログラムの品質管理等にとって意義あるもので, 論文賞受賞に値すると思われる.

○ 「二重指数分割に基づくデータ長独立実数値表現法Ⅱ」

〔論文誌 Vol. 24, No. 2, pp. 149~156〕



浜田 穂積君 (正会員)

1938 年生. 1964 年京都大学工学部数理工学科卒業. 同年(株)日立製作所入社. 現在同社中央研究所勤務. 東京農工大学工学部非常勤講師を兼任. 入社以来, システム記述

言語, 言語プロセッサの研究に従事. プログラミング言語を能率的に実行するハードウェアにも興味がある. 著書「PASCAL 入門」(オーム社). 日本数学会, 日本ソフトウェア科学会, ACM 各会員.

〔論文概要〕

実数値の 2 進表現として, 先に新しい表現法を提案した. その特徴は次の通りである. (i)形式はデータの長さに依存せず精度変換操作が単純, (ii)オーバフロー, アンダフローが事実上発生せず, 十分大きい数も小さい数も表現可能, (iii)固定小数点表現と比べて分解能の点で 1 ビットの不利にすぎない. しかしながら, 2 進数としての指数と本表現の指数部とが完全には対応せず 1 だけずれていたのを修正し, なおかつ上記の 3 つの特徴をそのまま保存していることを確認した. また, IEEE 標準案でいう, 非数, 丸めについても自然に定義できることを示した.

〔推薦理由〕

著者が先に提案した実数値の新しい表現法では, その表現の指数部と 2 進数としての指数とが完全には対応せず 1 だけずれていたが本論文でこれを修正した. 形式はデータ長に依存せず精度変換操作が単純で十分大きい数も十分小さい数も表現可能な実数値のすぐれた表現法を提案したもので, 論文賞受賞に値するものと思われる.

○ 「高速LISP マシンとリスト処理プロセッサ EVAL Ⅱ」

——アーキテクチャとハードウェア構成——

〔論文誌 Vol. 24, No. 5, pp. 683~688 (1983)〕



前川 博俊君 (正会員)

昭和 31 年. 昭和 54 年大阪大学工学部応用物理学科卒業. 昭和 57 年同大学院修士課程修了. 同年ソニー(株)入社. イメージ処理システム及び外部記憶装置の開発・設計

に従事し, 現在映像機器事業部勤務. 知識情報処理と, その実現のための計算機アーキテクチャに興味を持つ.



斎藤 年史君 (正会員)

昭和 25 年生. 昭和 48 年大阪大学工学部応用物理学科卒業. 昭和 50 年同大学院修士課程 (応用物理学専攻・数理工学コース)修了. 昭和 51 年 12 月大阪大学工学部助手. 大

型計算機におけるリスト処理システム (OLISP) などを開発. 人工知能, 知識工学の応用システムに興味をもつ. 電子通信学会会員.



土井 俊雄君 (正会員)

昭和 31 年生. 昭和 55 年
大阪大学工学部応用物理学科
卒業. 昭和 57 年同大学院修
士課程修了. 同年(株)日立製
作所入社. 以来, 同社中央研究
所において, 汎用大型計算機

のハードウェアの研究開発に従事.



西川 岳君 (正会員)

昭和 30 年生. 昭和 55 年
大阪大学工学部応用物理学科
卒業. 昭和 57 年同大学院工
学研究科応用物理学専攻前期
課程修了. 同年日本電気(株)
入社. 現在, コンピュータ技術

本部に勤務し, 大型計算機的设计・開発に従事.



安井 裕君 (正会員)

昭和 2 年生. 昭和 35 年
近畿大学理工学部電気工学科
卒業. 昭和 19 年多摩陸軍技
術研究所関西出張所研究手と
してロケット機の誘導装置の
研究開発に従事. 昭和 23 年

大阪大学工学部精密工学教室城研究室に勤務. 電
子計算機の試作研究に入り, 同 27 年助手, 同 40 年
応用物理学科講師, 同 43 年大型計算機センター
講師兼務, 同 45 年より工学部助教授, 工学博士.
この間, ライブラリプログラム, 言語プロセッ
サ, セルフプログラミングシステム, TSS ソフト
ウェアの検査の機械化, コンピュータ・ネット
ワーク, 記号処理的な応用システム, LISP マシ
ン等の製作研究を行っている.

〔論文概要〕

高速処理に重点をおいて LISP マシンを試作した. 本マシンの構成要素の一つである EVAL II は, リスト処理向きアーキテクチャを備えることを目的として設計したプロセッサであり, その実現への柔軟な対処のため, 既製のビットスライス等のマイクロプロセッサは一切使用しなかった. その特徴として, 内部バスにアドレス/データ共通バスを備え, リストサーチのため CARCDR の演算機能や, 効率よい分岐を行うディスパッチ機能がある. そして分岐演算と他の演算の並列処理などを行っている. 本マシンは, LISP インタプリタでは, 超大型計算機上のシステムに匹敵する高速処理性能を示している.

〔推薦理由〕

LISP インタプリタでは超大型計算機上の LISP システムに匹敵する高速処理性能を示す LISP マシンを開発している. LISP の処理の速度向上により, 人工知能, 知識工学等の研究に貢献することが期待できるものであり, 論文賞の受賞に値するものと思われる.

研究発表会開催通知

(昭和 59 年 6 月 15 日～7 月 31 日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
記 号 処 理	6 月 15 日 (金)	13 : 30～17 : 00	商 業 界 会 館	前号参照
マイクロナンピュータ	6 月 19 日 (火)	14 : 00～17 : 00	同 上	同 上
情 報 シ ス テ ム	6 月 19 日 (火)	13 : 30～17 : 00	機 械 振 興 会 館	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 基 礎 論	6 月 22 日 (金)	13 : 30～17 : 00	電 総 研	同 上
グ ラ フ ィ ク ス と C A D	6 月 26 日 (火)	13 : 00～17 : 00	機 械 振 興 会 館	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	6 月 27 日 (水)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
数 値 解 析	6 月 29 日 (金)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
日 本 文 入 力 方 式	7 月 11 日 (水)	13 : 30～17 : 00	同 上	下記参照
知 識 工 学 と 人 工 知 能	7 月 12 日 (木)	9 : 30～16 : 30	東 北 大	同 上
計 算 機 アーキテクチャ	7 月 13 日 (金)	13 : 30～17 : 00	商 業 界 会 館	同 上
設 計 自 動 化	7 月 17 日 (火)	10 : 30～17 : 00	機 械 振 興 会 館	同 上
コ ン プ ュ ー タ ビ ジ ョ ン	7 月 19 日 (木)	13 : 00～17 : 00	東 大・生 研	同 上
分 散 処 理 シ ス テ ム	7 月 20 日 (金)	13 : 00～17 : 00	機 械 振 興 会 館	同 上
デ ー タ ベ ー ス・シ ス テ ム	7 月 24 日 (火)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	7 月 25 日 (水)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
自 然 言 語 処 理	7 月 26 日 (木)	10 : 00～15 : 40	東 工 大	同 上

◆ 第 16 回 日本文入力方式研究会

(発表件数：3 件)

(主査：山田尚勇，幹事：坂下善彦，首藤正道)

日 時 昭和 59 年 7 月 11 日 (水) 午後 1 時半～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 9 号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8，地下鉄：日比谷線神谷町，浅草線大門，三田線御成門下車，国電：浜松町下車，バス：渋谷—東京タワー線東京タワー，等々力—東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車，Tel. 03 (434) 8211〕

議 題 (1) オンライン手書き文字認識システム JOLIS-2 定量的評価

中川正樹，池田裕治，相沢 正，菰田千冬，高橋延匡 (農工大・工)

〔概要〕 オンライン手書き文字認識システム JOLIS-2 の標本文字データベースを用いた。

(2) オンライン手書き文字認識システム (JOLIS) の研究開発支援ツール

セット 池田裕治，高橋延匡 (農工大・工)

〔概要〕 オンライン手書き文字認識システム (JOLIS) の研究開発用ツールセットの詳細と有効性について論ずる。

- (3) 仮名漢字入力と一般印刷用原稿 布施 茂 (写研)
〔概要〕 一般印刷物の原稿入力用として低頻度漢字、約物記号類等を幅広く収容し、操作方法にも検討を加えた印刷用仮名漢字変換式入力機について発表する。

◆ 第 35 回 知識工学と人工知能研究会

(発表件数：7 件)

(主査：志村正道，幹事：石塚 満)

- 日 時 昭和 59 年 7 月 12 日 (木) 午前 9 時半～午後 4 時半
会 場 東北大学工学部 図書分館視聴覚室
〔仙台市荒巻字青葉，国鉄：仙台駅下車，バス：工学部行（駅前青葉通り日立ショールーム前より乗車）約 15 分，Tel. 0222 (22) 1800〕
- 議 題 (1) ストローク間の関係を評価する文字認識アルゴリズム
江島俊朗，木村正行（東北大・工）
〔概要〕 ストローク間の関係を基にした文字認識アルゴリズムを提案し，その有効性を検討したものである。
- (2) 拡張論理型言語に基づく問題解決
富樫 敦，水野康尚，野口正一（東北大・通研）
〔概要〕 拡張論理型言語による問題解決機構並びに問題を効率よく処理するための制御構造について述べる。
- (3) 並列処理機能を有する Lisp マシンの開発
飯田三郎，井戸隆明，中村博文，野中 修，北橋忠宏，楠 菊信
(豊橋技科大・工)
〔概要〕 現在，開発中の Lisp マシンの概要について述べ，ハードウェア，ソフトウェアの開発状況について，併せて報告する。
- (4) 問診型医療診断支援システムの試作
和佐野哲男，東田正信，津村 宏（横須賀通研），
三宅浩之，益澤秀明（関東通信病院）
〔概要〕 頭痛を主訴とする疾患を対象とした予診レベルの問診を実現した医療診断支援システムの試作および評価報告。
- (5) Prolog を用いた秘書エキスパートシステム
東田正信，和佐野哲男，森原一郎（横須賀通研）
〔概要〕 秘書のノウハウを知識ベース化し，煩雑なスケジュール調整などの秘書業務の自動化を図ったエキスパートシステム。
- (6) 問題解決機能を有するロボット言語
岡野 彰，松原 仁，井上博允（東大・工）
〔概要〕 作業目標と初期状態の記述から自動的に動作手順を算出する作業レベルのロボット言語処理系について述べる。
- (7) 知識ベース技術の CAD への応用
韓 圭東，大須賀節雄，山内平行（東大・工）
〔概要〕 知識ベースシステム KAUS を利用して計算機内に直接に 3 次元モデルを構築するための研究について紹介する。

◆ 第 46 回 計算機アーキテクチャ研究会

(発表件数：4 件)

(主査：飯塚 肇，幹事：坂村 健，大島一純)

日 時 昭和 59 年 7 月 13 日(金) 午後 1 時半～5 時

会 場 商業界会館 2 階大会議室

〔東京都港区麻布台 2-4-9，地下鉄：日比谷線神谷町，バス：渋谷一東京タワー線東京タワー，等々力一東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車，飯倉交差点角
Tel. 03 (584) 7311〕

議 題 (1) 有限要素法専用並列計算のための立方格子状計算機

大澤 暁，斎藤千鶴子，天野英晴，横田隆史，相磯秀夫(慶大・理工)

〔概要〕 有限要素法を用いて偏微分方程式を解く場合に，粗密のある分割領域にも対応できる立方格子状計算機を提案する。

(2) アダプティブ・アレイ・プロセッサ—AAP—

近藤利夫，土屋敏雄，永谷三義，中島孝利(厚木通研)

〔概要〕 1 ビット・プロセッサの 256×256 の配列からなる大規模な 2 次元アレイプロセッサの試作結果および LSI-CAD への応用についての検討結果を述べる。

(3) データフローとノイマンコンピュータにおける直列処理速度の比較とその高速化

曾和将容，羅 四維(群大・工)

〔概要〕 上記の処理速度をレジスタレベルで算出する。また，プログラムカウンタによるデータフロー直列処理の高速化を提案する。

(4) K-Prolog の並列処理方式とその評価

松田秀雄，田村直之(神戸大)，小畑正貴(岡山理大・理)，

金田悠紀夫，前川禎男(神戸大・工)

〔概要〕 マルチプロセッサシステム上でパイプライン並列，OR 並列 Prolog 処理系を作成。両者の評価を行う。

◆ 第 22 回 設計自動化研究会

(発表件数：5 件)

(主査：村井真一，幹事：上原貴夫，向殿政男)

日 時 昭和 59 年 7 月 17 日(火) 午前 10 時半～午後 5 時

会 場 機械振興会館 6 階 65 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) 階層的ハードウェア設計言語 H^2DL の思想 宮田 操(東芝総研)

〔概要〕 階層的設計手法に適したハードウェア設計言語 H^2DL の基本的な考え方について述べる。

(2) H^2DL の言語仕様—内部仕様記述とハードウェア・プロセス記述—

西尾誠一(東芝総研)

〔概要〕 H^2DL の言語仕様を，RT レベル風の内部仕様記述と機能抽象化表現であるハードウェア・プロセス記述を中心に紹介する。

(3) 制御フロー図入力と制御論理合成 伊藤 誠，大平駿介(山梨大・工)

〔概要〕 マイコンによる会話型制御フロー図編集システムと，フローから論理図を自動合成し，簡単化するシステムを開発したので報告する。

(4) CMOS 標準セル自動生成システム : ACG

宮下 弘, 上田和宏 (厚木通研)

〔概要〕 CMOS 標準セル自動生成システムの構成とセルパタン生成手法について述べ, その有効性を示す.

(5) MOS 論理回路の並列論理シミュレーションについて

桐山正昭, 竹之上典昭, 古賀義亮 (防衛大)

〔概要〕 MOS 論理回路をネットワーク状に結合されたコンピュータによって並列に論理シミュレーションを行う場合の一方法について新たな提案を行う.

(6) 第 21 回 Design Automation Conference 報告

樹下行三 (広大), 尾崎 傑 (三菱電機)

〔概要〕 米国アルバカーキで開催される第 21 回 Design Automation Conference の速報.

◆ 第 31 回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数 : 6 件)

(主査 : 辻 三郎, 幹事 : 木戸出正継, 杉原厚吉)

日 時 昭和 59 年 7 月 19 日 (木) 午後 1 時 ~ 5 時

会 場 東京大学生産技術研究所 物性研第 1 会議室

〔東京都港区六本木 7-22-1, 地下鉄 : 千代田線乃木坂下車すぐ, 日比谷線六本木下車徒歩 6 分 (生研建物の正面から入って 2 階). Tel. 03 (402) 6231〕

議 題 (1) 論理回路図の自動入力装置

松浦俊夫, 岩田 清, 長田茂美, 吉田真澄 (富士通研)

〔概要〕 文字と図形の混在する手書き論理回路図を高速に認識する装置を開発したので, その方式ならびに装置化技術について報告する.

(2) 投影光学系を用いた光度差ステレオ法による金属面の形状決定

西野悦二 (松下電器), 白井良明 (電総研)

〔概要〕 投影光学系を用いた面光源照明下で, 金属物体面の法線方向と距離を同時に求める手法を提案し, その実験結果について報告する.

(3) 領域分離と最小二乗法による濃淡画像からの線分抽出

坪内孝司, 金山 裕, 油田信一 (筑波大・電子情報)

〔概要〕 原画像の各画素の濃度勾配の方向がほぼ等しい領域ごとに全領域を分離し, 最小二乗法を施すことにより, 線分らしさを評価する.

(4) 動的多次元データ構造を用いた図面処理システム AI-MUDAMS

大沢 裕, 坂内正夫 (東大・生研)

〔概要〕 動的 n 次元データ管理構造 (BD トリー) と知識ベースの導入により処理内容の柔軟性と処理の高速性を実現した図面処理システムについて報告する.

(5) マルチプロセッサ型汎用画像処理システム

— その 1. 基本理念とハードウェア —

三ツ矢英司, 末永康仁 (横須賀通研)

〔概要〕 汎用画像処理システム検討の一環として開発を進めている画像処理装置の設計理念とハードウェア構成を述べる.

(6) マルチ・プロセッサ型汎用画像処理システム

—その 2. 制御法とソフトウェア—

三ツ矢英司, 末永康仁, 奥平雅士, 河田悦生 (横須賀通研)

〔概要〕 汎用画像処理システム検討の一環として開発を進めている画像処理装置の制御法, ソフトウェアについて述べる.

◆ 第 23 回 分散処理システム研究会

(発表件数: 7 件)

(主査: 野口正一, 幹事: 河岡 司, 白鳥則郎)

日 時 昭和 59 年 7 月 20 日 (金) 午後 1 時~5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) 並行処理型待ち行列網シミュレータ D-SSQ について

佐藤 圭, 渡辺 尚, 中西 暉, 真田英彦, 手塚慶一 (阪大・工)

〔概要〕 先行制御を許す並行処理事象型待ち行列網シミュレータ D-SSQ の構成について述べ, 処理能力特性について検討を行う.

(2) D-SSQ における先行規制方式の検討

肥塚貞男, 渡辺 尚, 佐藤 圭, 中西 暉, 真田英彦, 手塚慶一 (阪大・工)

〔概要〕 先行制御方式の処理能力改善案として先行規制方式を提案し, その有効性について検討する.

(3) リモート・アクセスによる UNIX の分散処理 QS 化

谷口秀夫, 鈴木達郎 (横須賀通研)

〔概要〕 LAN の高速性と同報機能を利用したリモート・アクセス機能を UNIX に組み込む方法について述べる.

(4) NESDEL を用いたプロトコルの記述について

—HDLC と X.25—

舟田和司, 高橋 薫, 白鳥則郎, 野口正一 (東北大・通研)

〔概要〕 プロトコルの仕様記述言語として考案された NESDEL を用いて具体的に HDLC と X.25 を記述し他の記述法と比較・検討する.

(5) 高速の光ファイバループを用いたプロセッサ間結合方式に関する検討

小柳津育郎, 魚住栄市, 星子隆幸 (横須賀通研)

〔概要〕 光ループ接続される任意のプロセッサ間の通信を高速かつ高効率に実現するプロセッサ間結合方式を提案する.

(6) N 対 N のループシステムにおけるプロセッサ間通信効率化に関する検討

小柳津育郎, 魚住栄市, 星子隆幸 (横須賀通研)

〔概要〕 ループを介してチャネル結合された任意のプロセッサ間でソフトオーバーヘッドの少ない通信方式を提案する.

(7) 高速光ファイバループ用データリンクプロトコルの検討

小柳津育郎, 魚住栄市, 星子隆幸 (横須賀通研)

〔概要〕 光ループに接続される任意プロセッサ間通信を高速かつ高効率に実現するデータリンクプロトコルを提案する.

◆ 第 42 回 データベース・システム研究会

(発表件数：4 件)

(主査：酒井博敬，幹事：有澤 博，三浦孝夫，吉田郁三)

日 時 昭和 59 年 7 月 24 日(火) 午後 1 時半～5 時
会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)
議 題 (1) CAD 用データベース管理システム

川越恭二，縄田敏郎，矢部真一，真名垣昌夫 (日電)

〔概要〕 2 次元/3 次元図形処理システム用に開発した CAD 用データベース管理システムの考え方と，機能等について報告する。

(2) リレーショナルデータベースを用いた統計検索機能と実現方式

小菊一三，神尾視教，森元 逞 (横須賀通研)

〔概要〕 統計データモデルに基づいた自動集約機能を具備する，リレーショナルデータベース検索プログラムの紹介。

(3) 南カリフォルニア大学でのデータベース研究と履歴データベースモデルについて

田中克己 (神戸大・教養)

〔概要〕 米国南カリフォルニア大学のデータベース研究の活動を紹介するとともに，筆者らが当地で行った履歴データベースモデルに関する研究について報告する。

(4) DBMS 参照モデル

穂鷹良介 (筑波大・社会工学)

〔概要〕 DBMS の標準案作成作業，市販 DBMS の統一的な位置付けのために ISO で検討中の参照モデルについて日本の提案を中心に報告する。

◆ 第 37 回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数：4 件)

(主査：木村 泉，幹事：久保未沙，花田収悦)

日 時 昭和 59 年 7 月 25 日(水) 午後 1 時半～5 時
会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)
議 題 (1) 要求仕様の理解支援システム

大西 淳 (京大・工)，山本洋一 (日立)，阿草清滋，大野 豊 (京大・工)

〔概要〕 知識をモデル化し，理解および知識の獲得を定義する。このモデル上で要求仕様を発注者/設計者に理解支援させる。

(2) FUNCTION POINT によるソフトウェアの機能的生産性評価

建石雄三 (日本 IBM)

〔概要〕 アプリケーション・システムにおける機能面からの生産性評価について，従来の量的評価と比較。

(3) 仮想デバイス・インタフェース (VDI) の実現

近藤明男，今宮淳美 (山梨大・工)

〔概要〕 グラフィックス応用ソフトとデバイスとのインタフェース (VDI) の問題点と解決案・実現法。

(4) ソフトウェアメトリックスにおけるマイクロ分析の手法

廣瀬通孝，石井威望 (東大・工)

〔概要〕 プログラマー個人の能力に注目し，その積上げによってプログラムの生産性をマイクロに分析するための諸手法。

◆ 第 44 回 自然言語処理研究会

(発表件数：7 件)

(主査：吉田 将，幹事：柳 博史，野村浩郷，日高 達)

日 時 昭和 59 年 7 月 26 日(木) 午前 10 時～午後 3 時 40 分

会 場 東京工業大学 中棟 3 号館 527 号室

〔東京都目黒区大岡山 2-12-1, 目蒲線・大井町線：大岡山下車。

Tel. 03 (726) 1111, 内線 3046.〕

議 題 (1) ボトムアップ構文解析システム BUP での左外置変形の処理

今野 聡，田中穂積（東工大・工）

〔概要〕 ボトムアップ構文解析システム BUP に左外置変形を扱う機構を組み込んだのでその結果と問題点を報告する。

(2) ホーン節を内部表現とする自然言語理解システム

西原典孝，森田憲一（阪大・基礎工）

〔概要〕 知識ベースの表現としてホーン節を用いる自然言語理解システムを PROLOG 上で作成したので報告する。

(3) 概念依存図式と英語文生成

村木一至（日電・C&C 研）

〔概要〕 日本語解析によって得られた概念依存図式から英語文を生成する非変形文法について述べる。

(4) 新聞記事情報の階層構造に基づく記事分類・検索システム

藤崎博也，亀田弘之（東大・工）

〔概要〕 テーマ・概念・キーワード間の階層構造に基づく新聞記事情報分類・検索システムの概要とその試作結果を述べる。

(5) 制限文法にもとづく文書作成援助システム

長尾 真，田中伸佳（京大・工）

〔概要〕 入力された文が制限文法に適合しているかどうかをチェックし，適切な助言を与える文書作成援助システムについて報告する。

(6) エスペラントを仲介言語とする機械翻訳の試み

勝守 寛（中部大・工），福田 基（中部大・情報処理センター）

〔概要〕 規則的文法をもつ人工的国際補助語エスペラントを仲介言語とする機械翻訳プログラムの作成を試みた。

(7) オブジェクト指向方式による対話システム

一新幹線座席予約を例にして—

大沢一郎，米澤明憲（東工大・理）

〔概要〕 日本語の対話を理解するシステムのために，オブジェクト指向の概念を用いた日本語文の構文・意味解析および対話理解の手法を考案し，新幹線の切符予約を例にしたシステムを試作したので報告する。

※なお，研究会終了後，Prof. Ch. Boitet（フランス，グルノーブル大学）による「Current Topics on Machine Translation」の講演を行います。

◆ 「グラフィックス標準」 de ANS VDI (Virtual Device Interpace) —X 3 H 3 84/45 (1984・3 発行, 266 p.) 頒布価 3,720 円 (送料別途 1,000 円)。

—申込は現金書留で，6 月末日まで—

会費滞納会員の除名について

昭和 57 年度までに生じた会費滞納者 1,084 名は、去る 5 月 18 日に開催された第 25 回通常総会において、定款第 12 条にもとづき、5 月 18 日付で除名されましたので、ここに会告します。

なお、会費の滞納が 1 カ年以上におよぶときは、総会の議決により、除名されることとなりますので、ご留意ください。

新入会者の入会金免除について（予告）

理事会で承認された特定の学会（当面は電子通信学会）の会員が当学会に入会する際には、入会金を免除することになる予定です。（P. 642 第 25 回通常総会報告 5. 定款改訂の項参照。）

また、当学会々員が電子通信学会に入会する場合も、同様の取り扱いとなる予定です。

ただし、本件の実施時期は文部省の認可のあった日以降となります。認可があり次第本欄でお知らせしますので、ご留意ください。

59 年度会費および論文誌・欧文誌購読費の 納入にご協力ください

6 月中旬に、本年度の会費、購読費未納の方に、郵便振替用紙によって、標記のお願いをいたしました。

ご承知の通り、会費は前納制を原則としますので（すでに多くの方がたは納入済みです）。早急にご納入くださいますよう、よろしくお願いします。

なお、7 月末日までに納入いただけない場合には、9 月から会誌、購読誌の送付をストップいたしますので、ご留意ください。

また、ストップしました会誌、購読誌は、その後会費、購読費を納入されても配付を受けられないことがありますので、ご承知ください。

第 29 回 全国大会（昭和 59 年後期）概要および論文集予約

開催期日	昭和 59 年 9 月 11 日(火)～13 日(木)
会場	東北工業大学（仙台市八木山香澄町）
一般参加費	大会当日会場にて受付けます（登壇論文発表者以外）。 会 員 1,000 円（賛助会員は 1 口 1 名として正会員に準じます）。 非会員 2,000 円（電子通信学会会員で会員番号を申し出た方は、会員扱いとします）。
講演参加費	登壇発表者は原稿提出と同時に納入してください（原稿用紙は 6 月上旬に送付します。原稿締切 59 年 7 月 20 日）。 1 件ごとに 7,000 円（前回までは 1 人 2 件以上の場合は、2 件目から 2,000 円の追加でしたが、今大会から 7,000 円ずつとなりました）。登壇発表者には別刷 50 部および論文集 1 部を贈呈します。
論文集予約	予約を原則とします。本号綴込みの申込書により、59 年 8 月 20 日までに事務局へお申込みください。 予約価 5,000 円（定価 6,000 円）。 （予約者以外にお頒けできるのは、大会当日残部のある場合に限りです）。
プログラム	特別講演（1 件）、招待講演（1 件）、パネル討論（2 件）および論文発表（約 900 件）が予定されています。詳細は 8 月号に掲載します。とくに登壇発表者はご注意ください。
そ の 他	①懇親会（有料）が第 1 日目（9 月 11 日）の夜、別会場にて催されます。 ②ホテルの宿泊あっせんは例年どおり（株）日本旅行が行います。案内は次号本欄に掲載します。

第 30 回 全国大会（昭和 60 年前期）の開催について

4 月号本欄で予告した昭和 60 年春の第 30 回全国大会は、下記のとおり決定しました。ただし、会場の都合により期日が 1 日後へずれましたので、ご注意ください。

記

日 時	昭和 60 年 3 月 13 日(水)、14 日(木)、15 日(金)
会 場	工学院大学（東京都新宿区）

「論理設計自動化」シンポジウム開催のお知らせ

設計自動化 (Design Automation) 技術は LSI/VLSI およびこれらを用いたディジタルシステムの設計に不可欠のものであり、研究開発、実用化が推進されてきました。

今回、特に今後の発展が期待されている論理設計自動化分野の最新技術について、シンポジウムを開催することになりましたので、多数の方々のご参加をお願いいたします。

日 時 昭和 59 年 7 月 10 日 (火) 9:30~17:30

場 所 機械振興会館 研修 2 号室 (地下 3 階)

参 加 費 正会員 6,000 円, 学生会員 3,000 円, 非会員 9,000 円
(テキストのみ 2,500 円, 送料 300 円)

申込締切 昭和 59 年 6 月 25 日 (月) (申込書は前月号にあります)。

~~~~~プ ロ グ ラ ム~~~~~

- 司会 山田 昭彦(日 電)
上原 貴夫(富士通研)
- ・知識ベースを用いた CAD (9:50~10:40)
 - ・時相論理と PROLOG による論理設計の検証 (10:40~11:30) 藤田 昌宏(東 大)
——休 憩 (11:30~11:40)——
 - ・論理設計自動化技術 論理合成~論理式処理 (11:40~12:30) 伊藤 誠(山梨大)
——昼 食 (12:30~13:30)——

- 司会 村井 真一(三 菱)
- ・インテリジェント・スーパワークステーション (13:30~14:20)
坂村 健(東 大)
 - ・VLSI 設計自動化システム (14:20~15:10) 唐津 修(厚木通研)
——休 憩 (15:10~15:30)——

[パネル討論] (15:30~17:30)

「論理設計自動化の現状と今後の課題」

司 会 山田 昭彦(日 電)
パネリスト: 田渕 謹也(三 菱), 太田 義久(沖電気)
宮本 俊介(日 立), 松本 元(日 電)

プログラミングシンポジウム開催のご案内

今年の4月より、プログラミングシンポジウムの事務局が慶応工学会から情報処理学会に変わりました。これに伴い、プログラミングシンポジウム（夏のシンポジウムを含む）の開催公告等は、今後本欄に載ります。

また、参加申込の締切り等も若干早まりますのでご注意ください。

第17回 情報科学若手の会シンポジウム

日 時 1984年8月9日(木)～11日(土)
場 所 広島 国民宿舎宮島ロッジ
定 員 40名(先着順)
参加資格 情報科学およびその関連分野で研究・実務に従事している若手研究者・技術者(22～28歳くらいまで)。
参加費 13,000円(遠距離の人には、交通費の一部補助を予定)。
参加申込 A4判の用紙に氏名、所属、学年、連絡先、電話番号、発表内容の要旨を記入して送付のこと。
申込締切 1984年6月末日(必着)
申込・問合せ先 〒724 東広島市西条町下見 広島大学工学部 第2類 回路・システム
計算機工学研究室 若手の会事務局(相原)
Tel. 0824(22)7111(内線 3459)

・参加を内諾された先生方は以下のとおりです。

金田悠紀夫(神戸大)、高橋 義造(徳島大)
田中 稔(広島大)、和田 英一(東大)
(五十音順、敬称略)

第26回 プログラミングシンポジウム

日 時 1985年1月8日(火)～10日(木)
場 所 箱根ホテル小涌園(予定)
発表申込 8月31日迄に、氏名、所属、連絡先、発表の題と要旨をA4判用紙1～2枚に書いて事務局宛お送り下さい。
参加申込 10月号に案内予定
注 意
(1) 学術論文発表の場というより、多方面の人々の共通の討論の場であり、意見の交換の場であると考えています。
(2) 情報処理の健全な発展のために、多数の方々が参加され、特に利用者の立場から発言されることを期待します。
(3) 未完成であっても将来に影響を与えるような話題を歓迎します。
(4) 夜、ポスタセッション用およびマイコンその他のデモ用の場所を用意する予定です。
問合せ先 情報処理学会シンポジウム係

「自然言語処理技術」シンポジウム論文募集

近年、計算機による自然言語の処理は、機械翻訳・OAをはじめとして、応用・理論の両面において急速な進展をとげ、計算機科学・技術の重要な一分野となりつつある。一方、自然言語の本質である膨大さ・あいまいさ・柔軟さなどに起因する多くの難問に直面しつつあることも事実である。

本シンポジウムはこのような時期に鑑み昨年に引続き開催するもので、構文解析・意味解析等の基礎的・理論的な問題から、機械翻訳・OA等の自然言語処理技術の応用システムにわたっての幅広い最新の成果・問題点を総括し、自然言語処理技術の将来を展望するひとつの場とすることを旨とする。

期 日 昭和 59 年 11 月 6 日(火)、7 日(水)

会 場 機械振興会館大ホール (地下 2 階)

トピックス 理論・技法: 構文解析, 意味処理, 自然言語理解と知識処理, 対話と言語行動
応用分野 : 機械処理, データベースアクセス, OA, 情報検索, 自動抄録,
辞書・ターミノロジデータバンク, OA への自然言語応用, 自然
言語による仕様記述

実 施 方 法 (1) 発表論文については、公募および研究連絡委員による推薦とするが、原則として論文審査制をとる。
(2) 審査委員会は研究連絡委員によって構成する。
(3) 応募論文は英文 (5,000 語以内) または和文 (9,000 字以内) とし、英文の場合は A 4 判に double space でタイプのこと。なお、論文は 4 部送付すること。採択論文については Proceedings を発行する。

(4) スケジュール

応募論文提出 8 月 31 日

採否の決定 9 月 15 日

本論文提出 10 月 10 日

論文提出先 学会事務局シンポジウム係 (「自然言語処理技術シンポジウム論文」であることを明記すること)

連 絡 先 九州大学工学部電子工学教室 吉田 将 Tel. (092) 641-1101 (内線 5352)

※参加申込み等については今後本欄でお知らせいたします。

「アーキテクチャ ワークショップ イン ジャパン '84」

シンポジウム 論文募集

近年、VLSI 技術、及び人工知能等の非数値処理、超高速科学技術計算などの技術の発展には著しいものがある。これらのインパクトをうけて、また、これからの要請に応える形で新アーキテクチャの研究が盛んになっている。

本シンポジウムでは、コンピュータ・アーキテクチャ関連の研究者、技術者が一堂に会し、最近の研究成果、問題点、将来の課題を広く討論する場とし、わが国のアーキテクチャ研究活動の一層の活発化を図りたい。

このため、コンピュータ・アーキテクチャの本質・原理に係わる基本的問題から具体的なマシンの開発結果に至るまでの広範な論文を以下の要領で募集する。

日 時 昭和 59 年 11 月 27 日 (火)～28 日 (水) 9 時～17 時

場 所 機械振興会館大ホール (地下 2 階)

トピックス 計算機システムの設計・構成・制御技術

ファームウェア技術

VLSI 向きアーキテクチャ

ソフトウェア指向アーキテクチャ

問題向き／応用指向／専用アーキテクチャ (データベースマシン, 人工知能マシンなど)

各種の並列処理アーキテクチャ (データフローマシン, マルチプロセッサ, アレイプロセッサ等のスーパーコンピュータなど)

実施方法

(1) 発表論文については審査制とする。

(2) 応募論文は邦文 (9000 字まで) とする。また、論文のアブストラクト (邦文 500 字程度) を付ける。

(3) スケジュールは次の通りとする。

論文締切 8 月 20 日 (月)

採用決定 9 月末

最終論文 10 月 31 日 (水)

応募される方はコピー 3 部を下記へご送付下さい。

申 込 先 情報処理学会 シンポジウム係

なお、本シンポジウムに関するお問合せは下記までお願いします。

計算機アーキテクチャ研究会

(主査) 飯塚 肇 (成蹊大 0422 (51) 5181 内線 597)

(幹事) 坂村 健 (東 大 03 (812) 2111 内線 4108, 4111)

大島一純 (横通研 0468 (59) 2421)

「グラフィックスと CAD」シンポジウム論文募集

グラフィックスと CAD の研究開発は近年ますます盛んであり、基礎と応用の両面において多くの興味深い話題を提供しています。標記シンポジウムを昨年初めて開催したところ、多数の研究者、技術者の参加をえて、有意義な成果を得ることができましたので、本年度も以下のような要領でシンポジウムを開催いたします。

グラフィックスと CAD の全般にわたり、従来の成果の展望から、先端技術を深く追求するものまで、十分な意見交換や議論の種となるような論文の応募をお願いします。

日 時 昭和 59 年 12 月 6 日(木)、7 日(金) 9:00~17:00

場 所 機械振興会館大ホール(地下 2 階)

トピックス (主要なテーマは以下のとおりですが、これらに限りません。)

- ・グラフィックスの基礎／表示技術、リアリズムの追求、グラフィック入力、データ構造とデータベース、マン・マシン・インタラクション
- ・グラフィックス・システム／グラフィックス言語とソフトウェア、グラフィックス・デバイスとワークステーション、システムのモデリング、ラスター・グラフィックス、標準化
- ・グラフィックスの応用／アニメーションとアート、ビジネス・グラフィックス、文書や画像の処理、応用事例
- ・CAD／設計方法論、形状モデリング、図面入力と処理、エンジニアリング・データベース、インテリジェント・CAD、システム構成法、応用事例

実施方法

- (1) 完成された研究論文のみでなく、問題提起、アイデアの提案など、色々な性格の論文の応募を歓迎する。
- (2) 発表論文件数は 20 件程度とし、1 件当り発表時間は討論を含めて 30 分程度*とする。
- (3) 論文概要(和文 A4 判用紙 400 字程度)により、採択論文*を決定する。
- (4) 採択されたものは、本論文(情報処理学会全国大会論文集用紙にて、4~8 枚、和文)を提出してください。
- (5) スケジュール

- ・論文概要締切 8 月 15 日(水)
- ・採択論文決定通知 9 月 14 日(金)
- ・本論文締切 11 月 5 日(月)

申 込 先 (社)情報処理学会 「グラフィックスと CAD」シンポジウム係

Tel. 03 (431) 2808

ビデオ・フィルムショーを同時に行う予定です。出展ご希望の方は、内容概要、長さ、媒体、連絡先等を B5 判用紙に記入のうえ、お申込み下さい。

参加申込み等については、決定次第本欄にてお知らせします。

* 論文応募状況により、発表論文や発表時間の調整を行います。これらについては実行委員会にご一任ください。

「アドバンスト・データベース・システム」シンポジウム論文募集

データベースシステムは計算機技術の急速な進展に伴い、エンジニアリング、意思決定、オフィスオートメーション等の分野の主要なツールとして、高度な利用が志向されている。

本シンポジウムでは、データベースに関連する基礎的な問題から応用事例に至るまでの先鋭的論文を募集し、データベース技術の現在と将来を展望するひとつの場としたい。

特に、本年度は時系列データ、履歴データ、時制論理といった「時制」の問題をとりあげ、単に問題提起に止まらず応用分野を挙げて、その本質を探り、議論を深めたい。

日 時 昭和 59 年 12 月 11 日(火), 12 日(水)

場 所 機械振興会館大ホール (地下 2 階)

トピックス データベース工学の理論、技法、高度応用などの分野における研究、開発に関するもの

- ・DBシステム : 知識ベース, データベースマシン, マルチメディア DBMS, マイコンデータベース, Information Resource Dictionary など
- ・DB設計 : エンドユーザインタフェース, 概念スキーマ定義言語, 標準化
- ・高度応用 : OA, CAD, DSS 統計, 診断など

実施方法 (1) 発表論文については審査制とする。

(2) 応募論文はアブストラクトを含めるものとし、邦文 (9000 字まで)。

または、英文 (5000 字まで) とする。

ただし、英文論文には邦文アブストラクトを付け、これは語数には含めないものとする。

(3) スケジュールは次の通りとする。

論文締切 8 月 31 日(金)

採用決定 9 月末

最終論文 11 月 9 日(金)

- ・応募される方はコピー 3 部を下記へご送付下さい。

申 込 先 (社)情報処理学会 データベースシンポジウム係 Tel. 03 (431) 2808

VLSI 85 および CHDL 85 の論文募集について

1985年8月に経団連会館（東京都千代田区大手町）で、標記国際会議をそれぞれ3日間ずつ、本学会と IFIP で共催いたします。論文を下記の要領で募集いたしますので、発表希望の方は、準備してください。（正式の Call for Papers を必要とされる方は、学会事務局国際会議係へ希望会議名を明記して、70円切手同封のうえ、ご請求ください。）

1985年 VLSI 国際会議 (VLSI 85)

正式名称 VLSI 85—International Conference on Very Large Scale Integration

日 時 1985年8月26日(月)～8月28日(水)

論文募集

(1) テーマ

Design, Architecture and Technology for VLSI-Systems

(2) トピックス

VLSI Architecture, Impact of Technology on Design and Architecture, Novel Techniques for CAD, Design Methodology and Theory, New Applications, State-of-the-Art CAD Tools, Case Studies

(3) プログラム (予定)

○基調講演

H. Schwartzel (Siemens AG 西独), 野村浩郷 (武蔵野通研), 他1名 (米)

○招待講演

I. Barron (INMOS 英), G. Growther (Mullard Appl. Lab./Sub. Philips 英), C. Mudge (CSIRO 豪), M. Stefik (Xerox 米), 松江繁樹 (日電), 坂村 健 (東大) 矢島脩三 (京大) 他3名

(4) 論文提出

英文論文1部 (A4判20ページ以内, ダブルスペース), 英文アブストラクト1部 (500語以内)

論文締切 1985年1月10日

提出先 <Program Chairman>

Dr. Egon Hörbst

Siemens AG, Zentralb. Technik, ZT ZTI SYS 2

Postfach 830955, D-8000 München 83, West Germany

第7回 CHDL 国際会議 (CHDL 85)

正式名称 CHDL 85—7th International Symposium on Computer Hardware Description Languages and their Applications

日 時 1985年8月29日(木)～31日(土)

論文募集

(1) テーマ

Tool, Method and Language Integration

(2) トピックス

From Specification to Implementation of Digital Systems, Computer System/Hardware Description Languages, Tool Integration, Acceptance and Experience

(3) 論文提出

英文論文5部 (A4判20ページ以内, ダブルスペース)

論文締切 1984年12月15日

提出先 <Program Chairman>

Dr. Cees Jan Koomen

BSC/System Engineering, Philips International

P.O.Box 32, 1200 JD Hilversum, The Netherlands

本会協賛等の行事案内

	(開催期日・場所)	(主催・問合せ先)
第2回ライフサイエンス 講演会	昭和59年7月4日(水) 日刊工業ホール	理化学研究所 Tel. 03 (947) 1731
講習会「スーパーコンピ ューターいかに使うか、 現状と将来」	昭和59年7月25日(水) ～27日(金) 日仏会館ホール	(社)日本物理学会 Tel. 03 (434) 2671
「情報理論とその応用研 究会」第7回シンポジウ ム	昭和59年11月5日(月) ～7日(水) 鬼怒川グリーンパレスホテル	情報理論とその応用研究会 第7回シンポジウム委員会 Tel. 03 (209) 3211 (内 3420)
日本コンピュータ・グラ フィックス84	昭和59年11月7日(水) ～10日(土) 東京・新宿NSビル 東京ヒルトン・ホテル	日本経済新聞社 日本コンピュータ・グラフィッ クス協議会 Tel. 03 (270) 0251
第5世代コンピュータ 国際会議	昭和59年11月6日(火) ～9日(金) 東京・京王プラザホテル	(財)新世代コンピュータ技術 開発機構 Tel. 03 (456) 3195

25 周年記念論文集について

情報処理学会創立 25 周年を記念して、明年秋に記念論文集（学会誌特集号）を発行します。この論文集は各研究会が、その分野における優れたオリジナル論文を 1 編ずつ選んで編集するものです。論文の選定方法については、各研究会の自主性に委ねられますが、概ね 59 年度の研究発表会、シンポジウムおよび全国大会など、当学会における会員の最近の発表又は各研究会が公募するオリジナルな論文から選ばれることになります。詳細については、7 月号本欄および各研究発表会の場を通じて公告します。

58 年度会員名簿の修正申出について

4 月に発行された同名簿で、昨年 12 月末（現在）の時点で、修正があれば、7 月 10 日までに、ハガキでお申出ください。（訂正の一覧は、本誌 8 月号巻末に掲載の予定です。）

なお、名簿入用の方は、会員 4,000 円、非会員 8,700 円（いずれも送料込み）で、お願いたします。

支 部 だ よ り

情報処理学会東北支部大会講演募集

——昭和 59 年度電気関係学会東北支部連合大会——

- 期 日** 昭和 59 年 8 月 30 日（木）、31 日（金）
30 日（木）一般講演、技術報告 午後・特別講演 31 日（金）一般講演、技術報告
30, 31 日の両日、展示会（計測機器、電子通信機器、電力機器ほか）
- 会 場** 山形大学工学部（米沢市城南 4-3-16）
- 申込方法** 「講演申込書」は申出により「原稿用紙 1,600 字」「原稿の書き方」と共に渡す。
郵送希望の場合は 1 部 170 円（2 部以上の場合は 1 部増すごとに 70 円増）の郵送料を添えること。（講演申込金 3,000 円、論文集代・別刷 50 部代を含む。）
- 申込・原稿締切日** 7 月 5 日（木）必着厳守（申込書と原稿を同時締切とする）
- 論 文 集** 論文集は大会当日受付にて配布する。（1 部 2,500 円、郵送料 500 円）
- 申込・問合せ** 東北大学工学部電気系学科内 庄司 Tel. 0222(22)1800（内 4312）
- 懇 親 会** 8 月 30 日（木）18:00～ 場所米沢市 会費 3,000 円

第15回画像工学コンファレンス論文募集

画像工学コンファレンスは1970年の発足以来、関連学会・研究会の共通の研究発表、討論の場として、日本の画像関係の研究開発の発展に大いに寄与して参りました。本年も新たな発展を期し、第15回画像工学コンファレンスを開催することに致しました。また、'84国際画像機器展（日時：11月27日～29日、場所：都立産業貿易センター）を併催致します。奮ってご応募下さるようお願い致します。

日 時 昭和59年11月26日(月)～28日(水)

場 所 農協ホール（東京・大手町・農協ビル9階）

趣 旨 画像工学は光学、エレクトロニクス、写真・印刷などの広い分野の技術に支えられ、学術・産業・医療・民生にわたる分野の発展に貢献しております。本コンファレンスは技術交流を図ることにより、画像工学分野の研究開発をさらに活発にすることを目的とします。

構 成 招待講演と、応募による一般講演およびポスト講演により行います。
ポスト講演では、会場の決められた場所で図表、写真、実物等を示し、興味をもつ聴衆と自由に質疑、討論を交わしながら研究発表を行うことができます。また、オーディオビジュアル機器を用いたデモンストレーションもできるようにする予定です（消費電力の大きいものは不可）。

募集論文の性格 論文として未発表のものに限ります。ただし口頭発表や研究速報などは差支えありません。
募集論文の内容 画像の入力・記録・蓄積・伝送・表示・コピー・処理などの基礎・知覚・材料・デバイス・システム・方式・応用・評価に関連する内容を募集対象とします。

応募資格 特に資格を問いません。

応募論文の審査 応募論文はプログラム委員会において、申込時提出の内容概要で審査いたします。また、プログラム編成上、一般講演とポスト講演との変更をお願いすることがあります。

講演形式・時間 一般講演：質疑応答を含め20分（予定）
ポスト講演：ポスト会場での発表討議120分（予定）

講演申込方法 A 4横書の400字詰原稿用紙2枚以内（図表なども含め）の内容概要と、必要事項を記入した講演申込書（コピーでも可）を下記の送付先にお送り下さい。

申込締切 昭和59年6月30日(土)必着

論文集原稿 採択論文については一般、ポストとも、図・写真・表を含め7000字以内のタイプ原稿を提出していただきます。また、希望によりカラー印刷のページを設けます（ただし実費負担。刷上りサービスサイズ写真1点あたり2.5万円）。原稿やスライドの作成方法などの詳細は8月上旬、論文採否通知とともに連絡します。

論文集原稿締切 昭和59年10月17日(水)必着

主 催 第15回画像工学コンファレンス実行委員会（担当 情報処理学会・コンピュータビジョン研究会・グラフィックスとCAD研究会）

加盟学会・委員会 応用物理学会・光学懇話会、テレビジョン学会・画像表示研究委員会・視覚情報研究委員会、電気学会・電子デバイス技術委員会・光量子デバイス技術委員会、電子通信学会・画像工学研究専門委員会・パターン認識と学習研究専門委員会、日本ME学会・医用画像のデジタル処理研究会、画像電子学会、日本写真学会、電子写真学会、日本写真測量学会、日本印刷学会、レーザー学会、情報処理学会・コンピュータビジョン研究会・グラフィックスとCAD研究会。

送付先・問合せ先 〒105 東京都港区芝大門2-3-14 一松ビル1号館402号室
「第15回画像工学コンファレンス事務局」 ☎03-433-2544

第15回画像工学コンファレンス講演申込書

題 目		講演形式 の 希 望	オーディオ・ビジュアル 機 器	カラー 印 刷 (予定)
氏 名		☐ 一 般 講 演	有 ・ 無	
連絡先 (住所 所属 電話)	〒	☐ ポスト 講 演	☐ VTR ☐ マイコン・パソコン その他()	☐ 希望する ☐ 未 定 ☐ 希望しない
		☐ どちら でも可	持込み・借用	